

## 事例10 ICT端末で映像や個人の考えを共有して多様な視点で議論を深める事例

○学年 第2学年

○主な領域 B 相互理解、寛容

○事例のポイント

- ① 映像を自分の興味に合わせて繰り返し視聴し、考えを深めていく。
- ② クラウド上で考えを共有し、他者の意見に触れながら自分の考えを深めていく。

ICTを活用した主な学習 展開（話し合い）

### ICT活用の利点

- ① 事前視聴でイメージを膨らませ、授業内の再視聴では視点を絞って考えを深める動画活用を行う。
- ② 班員と協働して生活と結びつけた内容理解につなげるため、共同編集アプリを活用する。

1 主題名 おおらかな気持ちで 内容項目 B 相互理解、寛容

2 ねらい 認知症の方が働く姿について考えを交流し、議論する活動を通して、それぞれの個性や立場を尊重することや、様々な見方や考え方があることを理解させ、寛容の心をもって謙虚に他から学び、自らを高めていく態度を育てる。

教材名 注文をまちがえる料理店(出典：「新しい道徳2」東京書籍)

### 3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

人にはそれぞれ異なるものの見方や考え方があり、個性がある。そのことは理解できるが、行動として表現することは難しい。そうした状況で大切なのは、互いに相手の独自性を認め、考えや立場を尊重することである。忙しい日々の中では、自分のことだけを考えるのではなく、寛容の心や他者の意見を素直に受け入れる謙虚さを持ち、他から学びながら自己を高めることが必要である。相手を素直に受け入れ、互いの独自性や立場を尊重し、広い視野で様々なものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てることが大切である。

さらに、生徒には、相互に個性や立場を尊重することが自分の人生にどのような価値をもつかを考えさせたい。また、他者に対して寛容の心を持ち、謙虚に学ぶことが人間としての成長につながることを理解させたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

本校の生徒は、他者の考えや立場を尊重し、調和して生活することの大切さを理解している。入学当初から「あなたも大事、私も大事」という言葉を大切にして、学校生活を送ってきた。

2学年1学期の林間学校では、「リーダーとフォロワー」について考え、それぞれの立場で支え合うことの重要性を学んだ。しかし、中学2年生になると、ものの見方や考え方が確立する一方で、それに固執する傾向も見られる。例えば、他者との競争心が強く、負けないよう努力するあまり、他者の考えや行動を受け入れられず、トラブルに発展することがある。学級の仲間と仲よくしたい気持ちはあるものの、相手の頑張りやよさを認められず、気持ちとは反対の行動をとってしまう場合もある。その結果、良好な友人関係が築けず、互いに悩みを抱えながら生活することになる。

仲間のよさを認められるようになると、心に余裕が生まれる。そのとき、勝ち負けだけの狭い世界から抜け出し、より広い視野で自分や他者と向き合えるようになる。競争心にとらわれず、互いの個性や立場を大切にできる関係を築いてほしい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

「間違えちゃうかもしれないけど、許してね。」と間違いを受け入れ、いっしょに楽しむ空気の中で、「認知症を抱える人」が接客する。不思議で温かいレストランの物語である。

- ① 「間違いを設計しておいた方がよいという意見をどう思うか。」という発問を通して、「間違いを受け入れ、いっしょに楽しむ。」という気持ちをもつ人々が紡ぐ温かさの中にも、さまざまなものの見方や考え方があることを考える。
- ② 「あっ自然でいいんだな。どんなことを理解したの。」という発問を通して、注文を間違えたり、うまく演奏できなかつたりする場面に注目させる。競争心に駆られる日々の中でも、相手のよさを認めることが、自分のよさに気付くきっかけになり、みんなが過ごしやすい雰囲気を生み出すことを、さまざまな角度から考えられるようにする。
- ③ 「他者を理解していくために大切なこととは。」という発問を通して、互いに認め合える雰囲気の醸成が、温かく過ごしやすい集団をつくることに気付けるようにする。

## 4 学習指導過程

### (事前指導)

授業の一週間前に、クラウド上で「注文をまちがえる料理店の映像」を共有し、視聴を促す。

#### 【ICT端末の活用】

ICT端末で注文をまちがえる料理店のホームページから「当日のイベントの様子」を視聴する。 <http://www.mistakenorders.com/>を参照

事例のポイント①

ICT活用の利点①

「注文をまちがえる料理店」の実際の映像を事前に視聴することで、映像の中に出てくるお店の雰囲気やお客さんの笑顔が印象に残っている状態で、授業に参加することができる。

また、教材のポイントとなる認知症という病気について事前に調べることで理解を深めた状態で、授業に参加することもできる。

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 認知症について関心をもつ。</p> <p>① 「食事に出かけて注文を間違えられて、頭にきた」教員の話聞く。</p> <p>② アンケート結果から実態を知り、内容に興味をもつ。</p> <p>③ 認知症について各自で情報を収集する。</p> <p>■指摘 ■責める ■理由聞く ■気づかないふり ■受け入れる ■励ます</p> <div data-bbox="304 730 676 943" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>ICT活用の利点②</b> 自分たちで認知症について調べた情報を共有する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それは自分も嫌だな。</li> <li>・それくらいよくあることだよ。</li> <li>・他者の間違いを、認められそうで認められない自分に気付く。</li> <li>・他者の努力を認められる人ばかりではないことに気付く。</li> <li>・認知症がどのような病気なのかとどんなことに苦しんでいるのかを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答えやすい発問をして、より多くの生徒に発言を促す。</li> <li>・認知症に関しては、色々な家庭事情があるので深入りには気を付ける。</li> </ul> <div data-bbox="986 443 1378 1048" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>ICT活用の利点②</b> アンケート結果をすぐに共有し、今回の内容に興味をもてるようにする。「自分が周りの人と関わる中で、相手が間違ったり、失敗したりした時、あなたはどうしますか。」※複数回答可</p> <div data-bbox="1038 725 1329 768" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>他者の失敗に対して</p> </div>  <p>■ 指摘 ■ 責める ■ 理由を聞く ■ 気づかないふり ■ 受け入れる ■ 励ます</p> </div>
展開	<p>2 「注文をまちがえる料理店」を読んで、話し合う。</p> <p>(1) 「間違える可能性を設計しておいたほうがよい」という意見をどう思うか。</p> <p>(2) 「あっ自然でいいんだな」ってどんなことを理解していたのだろう。</p> <p>(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助けてあげないと間違えてトラブルになってしまうよね。</li> <li>・何度やっても失敗しちゃう店員がいたら責任者としてどうする。</li> </ul> <p>※【ICT端末の活用】映像</p>	<p>〈登場人物〉小国士朗、三川一夫・泰子、テツさん 〈条件・状況〉レストランで働く方は、サポーター以外は認知症の方々である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違えることはつらいことなのでその設計はおかしい。</li> <li>・サポートとか関係なく、楽しむことが大切。</li> <li>・助けてあげなきゃという気持ちは必要ない。</li> <li>・責任をとってもらう。</li> <li>・優しい雰囲気が</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しはにかみながら、黙って話を聞いていた泰子さんの気持ちを考えられるようにする。</li> <li>・注文をまちがえる料理店のコンセプトが書かれたボードを拡大して貼り出しておく。</li> <li>・映像視聴後、スタッフとお客</li> </ul>

<p>(店員と客のやり取りと雰囲気 が伝わる場面) 2分5秒～ 2分40秒を見る。 <a href="https://youtu.be/530sFnNDAFw">https://youtu.be/530sFnNDAFw</a> を参照。</p>	<p>ある。 ・頑張っているこ とが伝わる。</p>	<p>さんのやり取りから気付いた ことを確認する。  【考察(1)①参照】</p>
--	------------------------------------	---

<p>問い返しの具体例</p>
<p>T : 自分が注文した料理と<u>違うものが来たら</u>どう思いますか。  C1 : 不満。間違えるなよって思う。  T : その店員さんが<u>認知症を抱える方</u>だったらどう思いますか。  C2 : しょうがない。  T : 今回は<u>障害を抱えている方だから特別に許す</u>ということですか？  C2 : いや、覚えようと努力している姿は伝わる。  T : <u>実際の映像を見て</u>どう考えますか。  C3 : 店全体に温かい雰囲気がある。丁寧に対応しようとしている。  T : 間違ってしまうけど<u>料理にこだわっている点</u>はどう感じますか  C4 : そういところが重要なポイント。その人の欠点という一面だけじゃなくて、い いところとか、多角的に見つめていくことが必要。  T : 小国さんは<u>なぜこういうお店を企画した</u>んだろう。  C5 : 人はみんな違うのが当たり前。  C6 : 人と人との温かいふれあいが大切。  C7 : 自分の当たり前を押し付けるべきではない。</p>

<p>(3) 演奏はどうだったのだろ う。 ※映像【ICT端末の活 用】 (三川さんご夫妻が間違えなが らも演奏を続ける場面) 2分4 5秒～4分45秒を見る。 <a href="https://youtu.be/530sFnNDAFw">https://youtu.be/530sFnNDAFw</a> を参照。  (補助発問) ・お金を払って参加したピアノ の演奏会で演奏者が何度も間 違っていたらどうですか。 ・失敗に対してどんな雰囲気が ありますか。(お店、クラス、社 会)</p>	<p>・何度も間違っ ていた。 ・今できることを 精一杯行って いた。 ・夫が優しくて、 お客さんは失 敗を受け入れ る雰囲気があ る。 ・何度間違っても 弾き続けてい た。 ・不満に思う。 ・全員が感情移入 している。間違 いを受け入れ る温かさがあ る。</p>	<p>☆個性や立場を尊重し、寛容の 心をもって謙虚に他から学 び、自らを高めようとする態 度について、他者の意見を参 考にしながら、様々な視点で 捉えている。(発言) ・映像で見ているのは5回目の 演奏であること抑えさせ、そ の上で周囲の様子はどうか を確認する。 ・ただ「感動した」という一言 ではなく、「何に」「どうし て」感動したのかを考えられ るようにする。 ・寛容の心をもって謙虚に学ぶ 態度について気付かせる。 ・社会全体が心のゆとりをも ち、相手を受け入れることが 大切であり、そういう社会を みんなで創っていくことが必 要だということに気付かせ る。</p>
---	---	---



## 5 他の教育活動との関連

国語科(光村図書出版)	「よりよい結論を導く討論をする」
英語科	電話でのやり取り、異文化理解
学校行事	宿泊学習、体育祭、合唱コンクール、演劇コンクール
総合的な学習の時間	自由探究「自分の好きを探そう」
特別の教科「道徳」	「遠足で学んだこと」(相互理解・寛容)
事後指導	帰りの会で本時の学習内容を振り返る。
家庭との連携	学級通信で本時の学習内容や生徒の感動を紹介し、家庭でも「おおらかな気持ち」や「寛容な心」について話題にしてもらう。

## 6 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・個性や立場を尊重し、寛容の心をもって謙虚に他から学び、自らを高めようとする態度について、他者の意見を参考にしながら、様々な視点で捉えている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・互いの存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することについて、話合いで得た考えを自分の生き方と結びつけて捉えている。

## 7 考察

### (1) 道徳科の目標に示された学習活動

#### ① 多面的・多角的に考える学習について

本時では、「個性や立場を尊重し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていく態度」を育てることをねらいとし、他者の考えを参考にしながら、多面的・多角的に考えられる授業を行った(図1)。

具体的には、教材に関連する実際の映像を事前に配布し、各自が視聴して予備知識を得たうえで学習に入れるようにした。また、授業では視点を絞って視聴させ、新たな気づきが生まれるよう工夫した。たとえば、動画の2分5秒以降の店員と客のやり取りと雰囲気伝わってくる場面では、「認知症の方とお客さんがつくる雰囲気」と「料理」に視点が向くよう、議論の流れを意図的に設定した。その結果、「障害があるから間違いを許す」のではなく、「お店全体が優しい雰囲気で、一生懸命に接客しようとする姿に心が向く」という捉え方が生まれた。また、料理についても、問題点ばかりに目を向けるのではなく、「おいしい」という長所から見方を広げることを促した。

発問に対して全体で共有する前に、ICTを使って生徒の意見をすくい上げることを試みた。

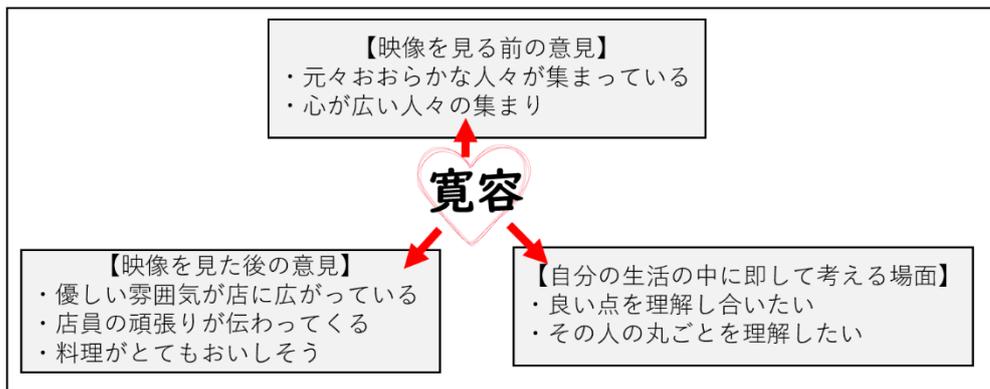


図1：寛容について多面的・多角的に考える工夫

しかし、授業の中盤で生徒の思考が深まりつつある場面でICTを使用すると、パソコンに向かう時間が増え、授業の流れが停滞することがわかった。今後は、ICTを使用する場面設定をより精査することが課題となった。

さらに、動画の2分45秒からの三川さんご夫妻が間違えながらも演奏を続ける場面では、失敗に対する会場の雰囲気に着目して視聴させた。生徒たちは、普段の生活環境がいかにかに失敗に対して厳しく、その中で自分も他者も苦しんでいるのかに気付くことができた。また、失敗を受け入れ、一生懸命な姿に共感しながら感動している店の雰囲気を想像するきっかけにもなった。補助発問を重ねながら思考を揺さぶるうえで、実際の映像は有効に働いた。

## ② 自分との関わりで考える学習について

授業の後半では、少人数班でパソコン上の共有アプリ（Whiteboard）を活用し、発問3「他者を理解していくためには何が大切か」に取り組ませた。自分との関わりに関する発問に対して、考えを深めたり、多面的に考えたりすることが苦手な生徒もいるので、全体の差が生じやすい。そこで教材に関連した発問(2)と発問(3)を投げかけつつ、問い返しによって生徒が自分の生活に立ち返れるように工夫した。そのことで、「他者を理解していくために大切なこと」を問うことで多面的に考えが広がりやすいようにした（図2）。

具体的には、発問(2)「『自然でいいんだ』とは何を理解したのか」に対し、「自分が注文した料理とは違う料理が運ばれてきたらどう思うか」と問い返した。これにより、生徒が日常で他者の間違いに対して厳しい目を向けている場面に気付けるようにした。

また、発問(3)「演奏はどうだったか」では、「自分がお金を払って参加した演奏会で、何度も失敗があった場合に許せるか」と問い返し、今回の会場の雰囲気と自分の生活環境との差に目を向けられるようにした。

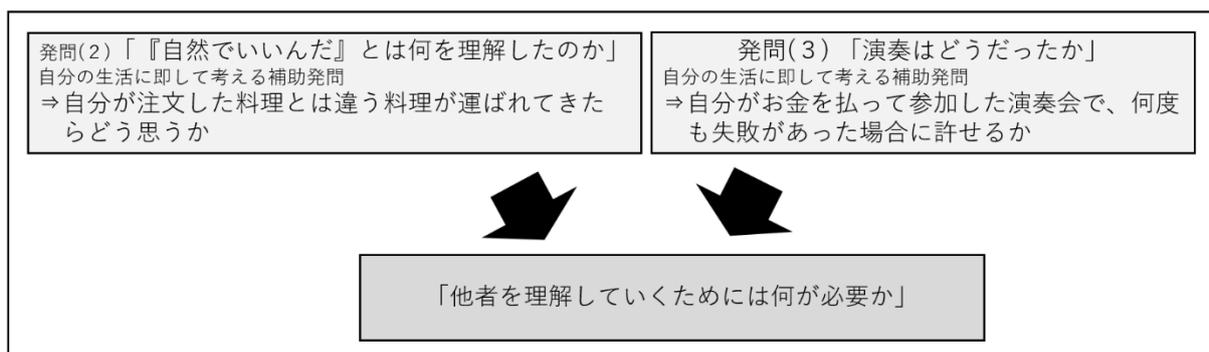


図2：自分の生活に立ち返れるようにする発問の工夫

このように、自分自身について段階的に多面的な考察を重ねたうえで、最終的に「他者を理解するために大切なこと」をアプリ上で深められるようにした。アプリ上では班員の考えに触れながら自分を見つめ直すだけでなく、他の班の意見も自由に参照できるため、多様な視点から考えを深めることにつながった。

## (2) 評価の視点について

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・個性や立場を尊重し、寛容の心をもって謙虚に他者に学び、自らを高めていく態度について、他者の考えを参考にしながら、様々な視点で捉えようとしている。

学級全体での発言内容、少人数班での活動の様子、そして作成物の記述を基に評価を行った。映像を用いた問い返しによって考えをさらに深める場面では、自分の価値観を明確にしながらかえようとする生徒が多く見られた。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することについて、話合いで考えたことを自分の生き方と結びつけて考えようとしている。

学期を通して使用している振り返りシートの記述を見取ることによって評価を行った。授業前には他者の間違いに厳しく指摘しがちな自分を自覚していた生徒が、「頑張ろうとしている人を認めたい」「違いがあるのは当たり前」「理解し合う関係性が温かい雰囲気につながる」など、自己の生き方を振り返りながら改善しようとする記述を多く残していた。